

船木地区活性化計画

平成27(2015)年3月

船木連合町内会
(船木地区地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1 章	地区の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	3
3	道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2 章	地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	7
1	地区住民（16歳以上）	7
2	地区外に住み、船木地区に勤務している人	19
3	地区内事業所の事業主	24
4	調査結果のまとめ	26
3 章	地区の魅力・資源と問題点・課題	27
1	地区の魅力・資源	27
2	地区の問題点・課題	29
4 章	地区の活性化計画	30
1	地区の将来像	30
2	地区づくりの基本方針	32
3	地区づくりの基本計画	33
4	計画の推進体制	41
資料	計画策定の取り組み	42

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

船木地区は、沼田川及び菅川などの流域に平地部が広がり、地区の西部には広島空港、山陽自動車道本郷インターチェンジが立地しています。こうした高速交通条件を活かした地区の活性化が期待されていましたが、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手不足、近隣関係の希薄化、農林業の低迷など、地区の活力が失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、船木連合町内会では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、「船木地区活性化計画」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「船木地区活性化計画」は、船木連合町内会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体、事業所などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、船木地区出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

船木連合町内会では、各種団体の代表者などとともに「船木地区地域計画策定委員会」を設置し、「船木地区活性化計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区住民（16歳以上）、地区外に住み、船木地区に勤務している人、地区内事業所の事業主へのアンケート調査の実施、地区住民全員を対象としたワークショップ（意見交換会）を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成27(2015)～31(2019)年度までの5年間とします。

1章 地区の概要

1 位置・面積

本地区は、三原市本郷地域の北部に位置しており、面積は約29.9km²です。

地区の西部には、広島空港及び山陽自動車道本郷インターチェンジが立地して、高速交通条件に恵まれています。

また、本郷地域の中心部に隣接しているほか、三原市中心部まで車を利用した場合、約30分の距離にあり、比較的日常生活の利便性に恵まれた地区です。

図1 船木地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で1,867人になっており、過去5年間で24人の減少とほぼ横ばいになっています。

年齢4区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳213人、15～64歳1,099人、65～74歳226人、75歳以上329人になっており、65歳以上の割合は約30%になっています。

年齢別にみると、過去5年間で75歳以上は増加、75歳未満の各年齢層は減少しています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区 分		平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
実数	0～14歳	234	213	△ 21
	15～64歳	1,128	1,099	△ 29
	65～74歳	241	226	△ 15
	75歳以上	288	329	41
	合計	1,891	1,867	△ 24
割合	0～14歳	12.4	11.4	△ 1.0
	15～64歳	59.7	58.9	△ 0.8
	65～74歳	12.7	12.1	△ 0.6
	75歳以上	15.2	17.6	2.4

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で639世帯になっており、過去5年間で32世帯増加しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で2.92人になっており、過去5年間で0.20人減少しています。

表2 世帯数等の推移

区 分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
世帯数 (世帯)	607	639	32
世帯人員 (人)	3.12	2.92	△ 0.20

(3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成31(2019)年で約1,780人、平成36(2024)年で約1,720人になり、平成22(2010)年と平成36(2024)年を比較すると約150人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成36(2024)年の人口を比較すると、0～14歳が213人から186人、15～64歳が1,099人から904人、65～74歳が226人から241人、75歳以上が329人から385人になり、65～74歳及び75歳以上は増加、65歳未満の各年齢層は減少するものと見込まれます。

また、65歳以上の割合（高齢化率）は、平成31(2019)年35.5%、平成36(2024)年36.4%で、平成22年(2010)年以降平成31(2019)年までに5ポイント程度増加した後、平成36(2024)年に向けては微増で推移するものと見込まれます。

図2 年齢3区分別人口の将来見通し

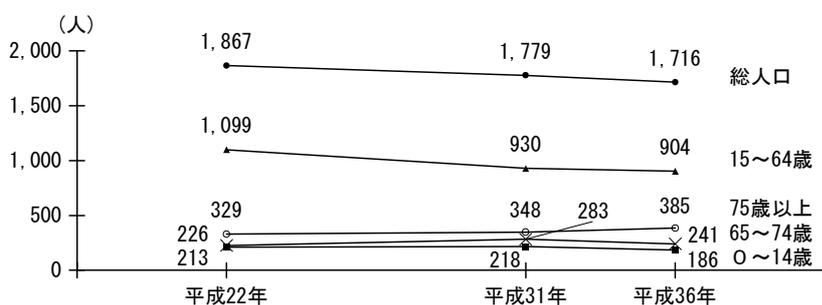


図3 年齢3区分別人口割合の将来見通し

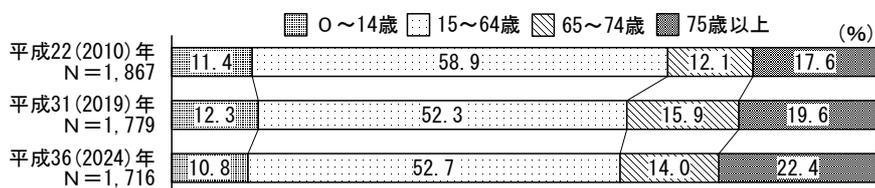
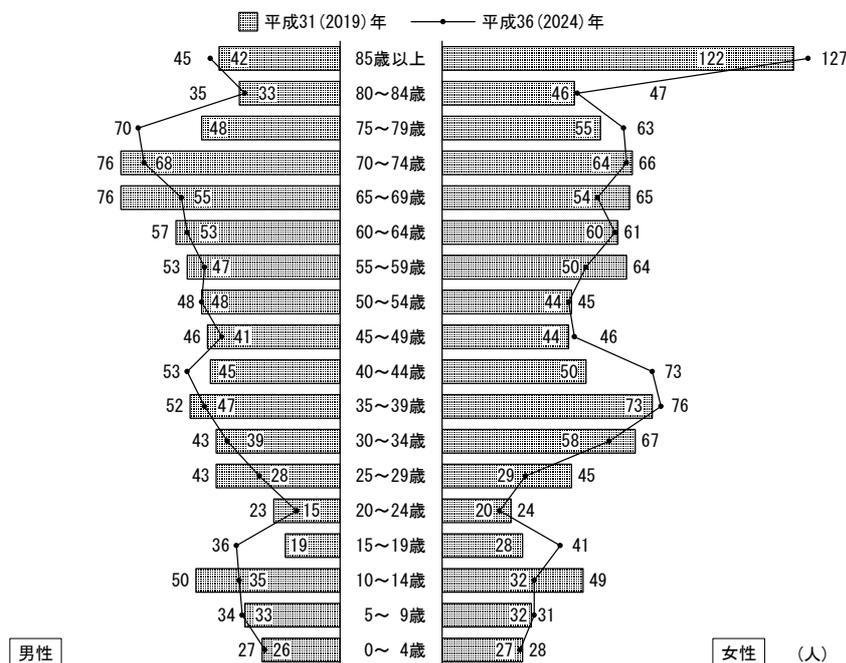


図4 男女別5歳階級別人口の将来見通し



3 道路・交通

道路網は、山陽自動車道が走り、本郷インターチェンジが設置されています。また、(主)瀬野川福富本郷線が東西に走り、国道2号を経て三原市中心部と連絡しているほか、東広島市河内町と連絡しています。さらに、(主)広島空港本郷線と(一)下徳良本郷線が南北に走り、山陽自動車道本郷インターチェンジや三原市大和地域と連絡しており、この3路線が本地区の骨格道路になっています。

公共交通機関としては、JR山陽本線が地区を東西に走っていますが、駅は設置されていません。また、地区内とJR山陽本線を連絡する路線バスが週3日運行しています。

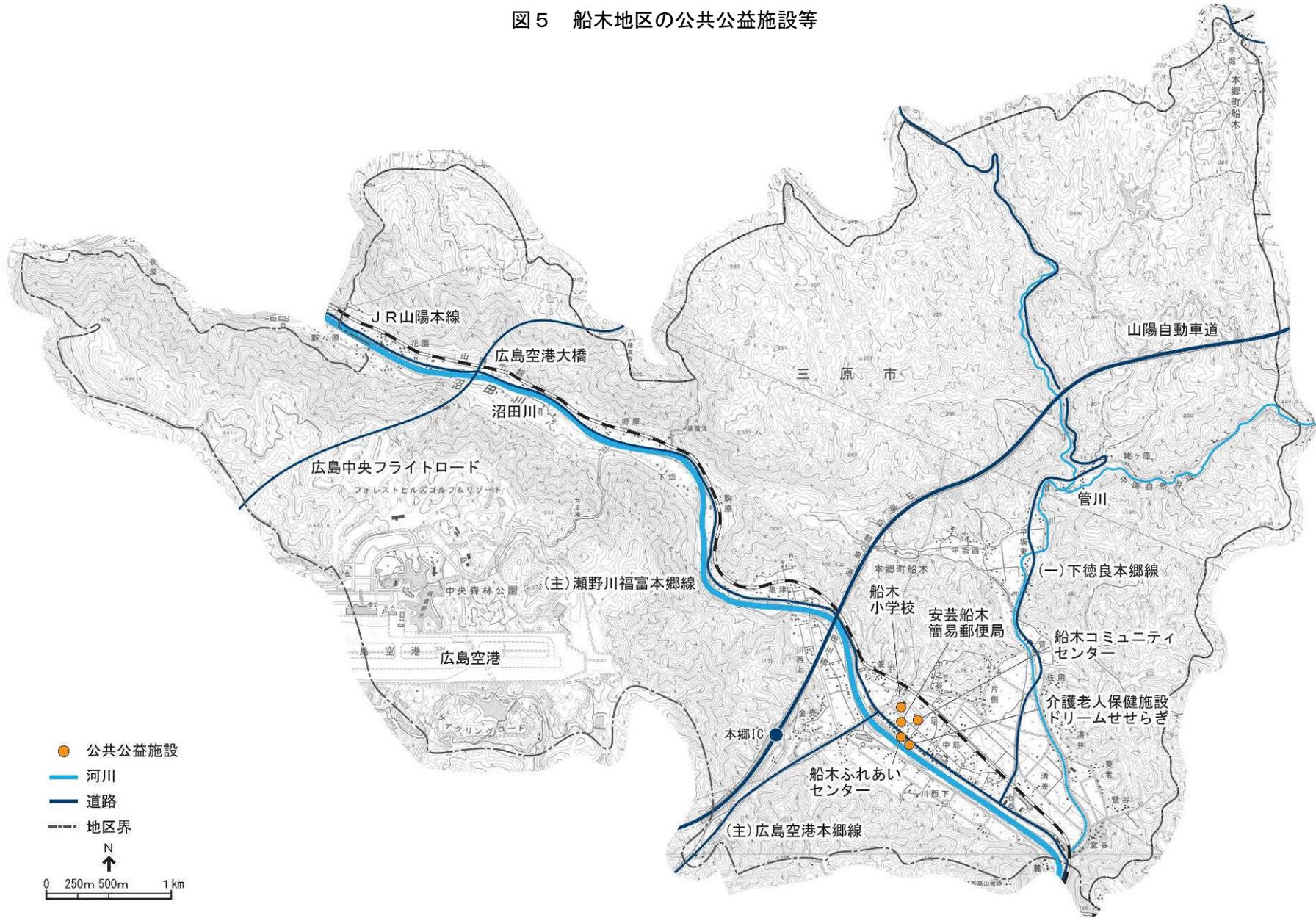
4 主要公共公益施設等

本地区には、文化集会施設として船木コミュニティセンターと船木ふれあいセンターがあり、船木コミュニティセンターは生涯学習及び地区コミュニティの拠点となっています。また、教育施設としては船木小学校がありますが、南方地区へ統合が計画されています。そのほかに、安芸船木簡易郵便局や介護老人保健施設ドリームせせらぎがあります。

表3 船木地区の公共公益施設等

区 分	名 称
文化集会施設	船木コミュニティセンター
	船木ふれあいセンター
教育施設	船木小学校
郵便局	安芸船木簡易郵便局
介護施設	介護老人保健施設ドリームせせらぎ
道路	山陽自動車道本郷インターチェンジ
	(主)瀬野川福富本郷線
	(主)広島空港本郷線
	(一)下徳良本郷線
鉄道	JR山陽本線
河川	沼田川
	菅川

図5 船木地区の公共公益施設等



2章 地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

本調査は、地区住民（16歳以上）、地区外に住み、船木地区に勤務している人、地区内事業所の事業主の意見を把握し、「船木地区活性化計画」の策定に反映するために行ったもので、回収数は地区住民（16歳以上）1,127件、地区外に住み、地区内で勤務している人119件、地区内事業所の事業主26件でした。

1 地区住民（16歳以上）

(1) 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」46.9%、「女性」50.4%で、ほぼ半々になっています。

年齢は、「65～74歳」が19.7%で最も割合が高く、次いで「50歳代」15.8%、「75～84歳」13.5%、「40歳代」12.9%、「60～64歳」12.8%、「30歳代」9.0%、「20歳代」7.1%、「85歳以上」5.3%、「19歳以下」2.8%の順になっており、65歳以上が約4割を占めています。

家族構成は、「二世世代（子どもと同居）」が28.4%で最も割合が高く、次いで「二世世代（親と同居）」18.0%、「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」17.6%、「三世世代・四世代」14.7%、「夫婦二人暮らし（夫婦ともに65歳未満）」7.6%、「一人暮らし（65歳以上）」4.6%、「一人暮らし（65歳未満）」2.6%の順になっており、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合が2割以上を占めています。

住まいは、「中筋」が31.1%で最も割合が高く、次いで「川西」19.3%、「茅田」15.4%、「河内谷」12.6%、「平坂」12.1%、「養老」9.5%の順です。

図6 性別

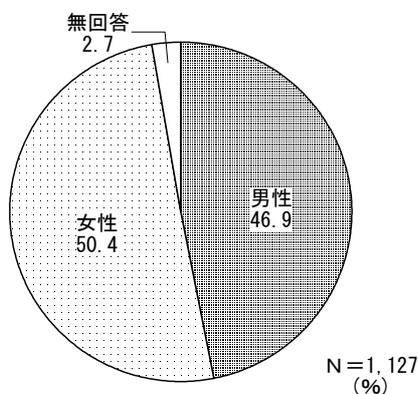


図7 年齢

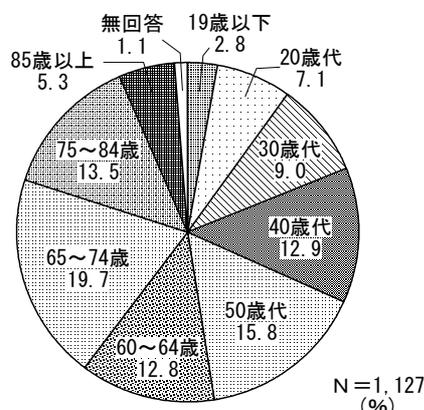


図8 家族構成

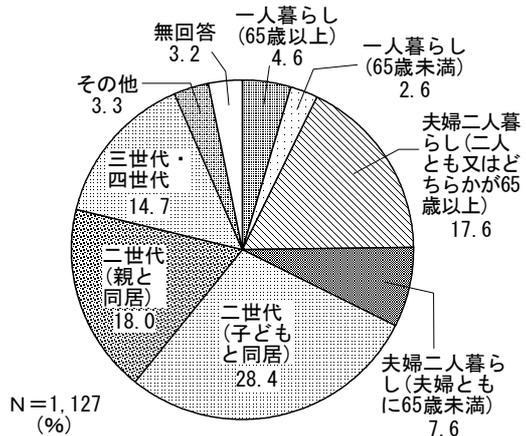
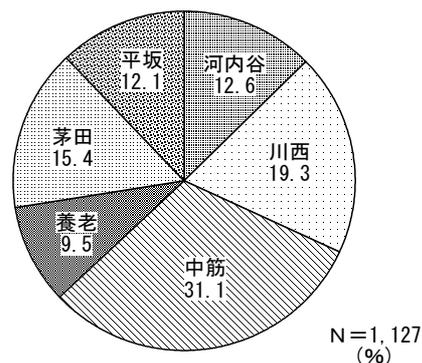


図9 住まい

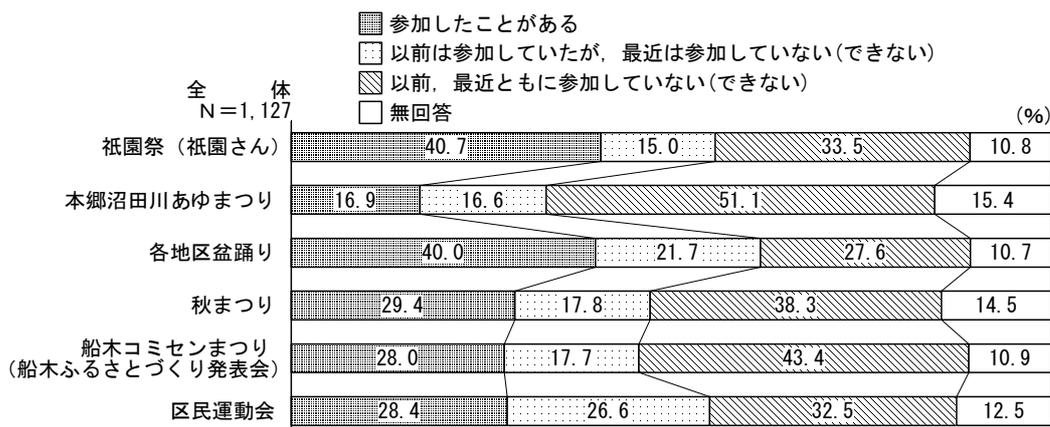


(2) 行事・活動への参加状況と満足度

ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「祇園祭（祇園さん）」が40.7%で最も割合が高く、次いで「各地区盆踊り」40.0%、「秋まつり」29.4%、「区民運動会」28.4%、「船木コミセンまつり（船木ふるさとづくり発表会）」28.0%、「本郷沼田川あゆまつり」16.9%の順で、「祇園祭（祇園さん）」及び「各地区盆踊り」の割合が比較的高くなっています。

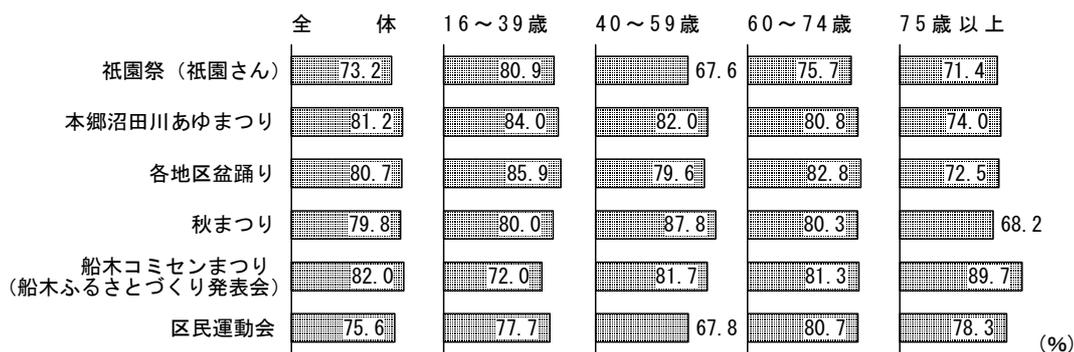
図10 参加状況



イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事・活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、80%台及び70%台それぞれ3項目で、全ての項目で満足度が高くなっています。

図11 満足度



ウ 復活してほしい行事・イベント

復活してほしい行事・イベントが「ある」と答えた人は4.0%とわずかです。

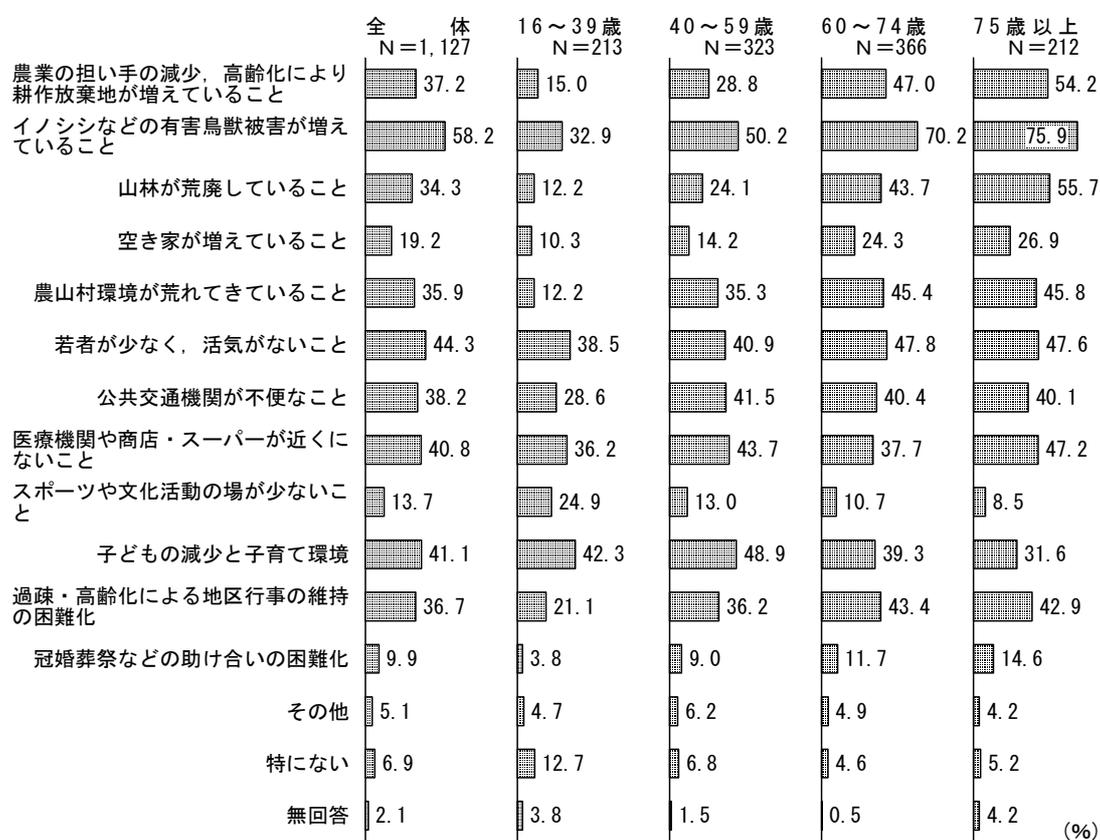
復活してほしい行事・イベントを記入した人は31人で、その内容は、「盆踊り」が15件で最も多く、その他では、「ふるさとづくり発表会」4件、「虫おくり」3件、「船木地区名所巡り」及び「グラウンド・ゴルフ大会」2件などです。

(3) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」が58.2%で最も割合が高く、次いで「若者が少なく、活気がないこと」44.3%、「子どもの減少と子育て環境」41.1%、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」40.8%、「公共交通機関が不便なこと」38.2%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」37.2%、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」36.7%、「農山村環境が荒れてきていること」35.9%、「山林が荒廃していること」34.3%などの順です。

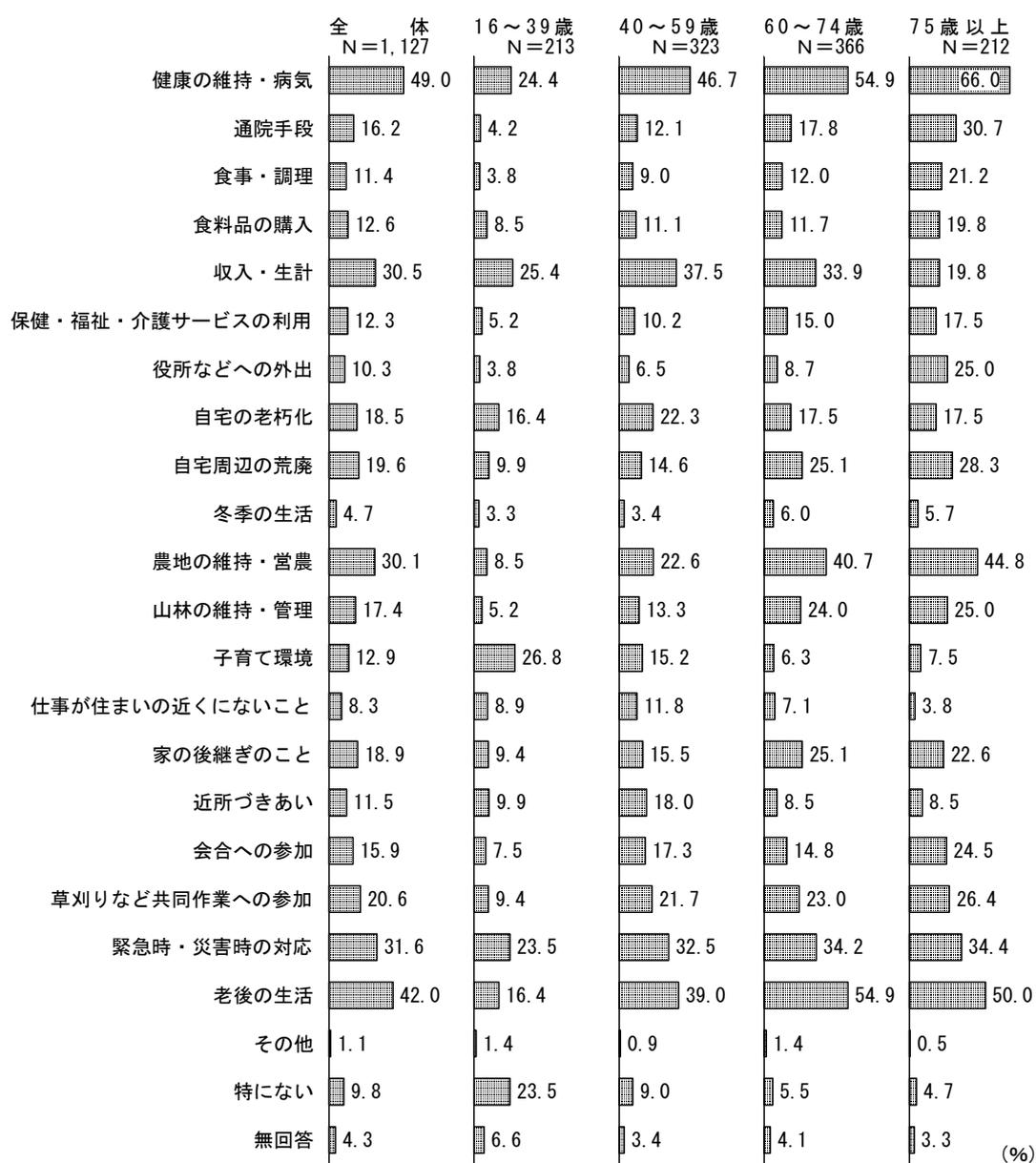
図12 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「健康の維持・病気」が49.0%で最も割合が高く、次いで「老後の生活」42.0%、「緊急時・災害時の対応」31.6%、「収入・生計」30.5%、「農地の維持・営農」30.1%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

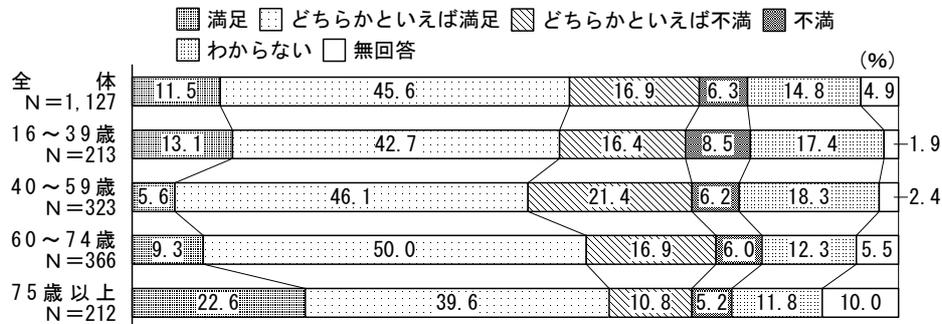
図13 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



ウ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」11.5%、「どちらかといえば満足」45.6%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は57.1%です。

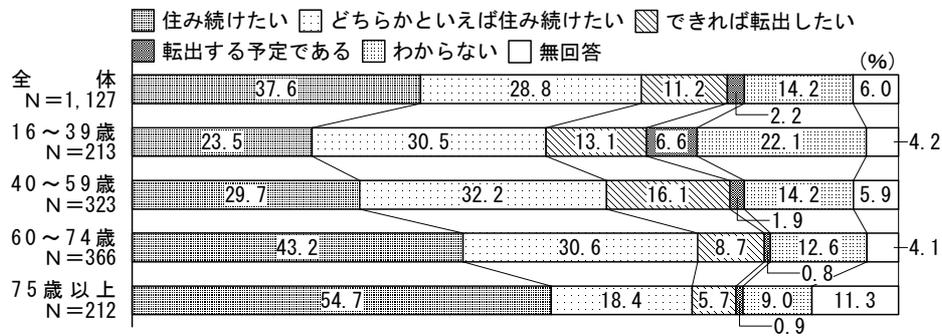
図14 地区の住みやすさの評価



エ 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は、「住み続けたい」37.6%、「どちらかといえば住み続けたい」28.8%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は約2/3です。

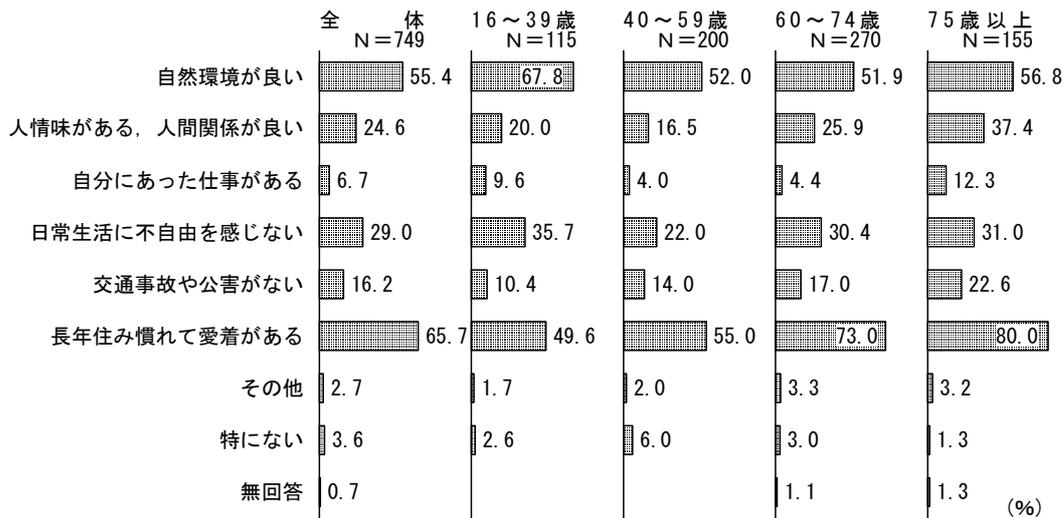
図15 地区への今後の居留意向



オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」が65.7%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」55.4%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「日常生活に不自由を感じない」29.0%、「人情味がある、人間関係が良い」24.6%、「交通事故や公害がない」16.2%などの順です。

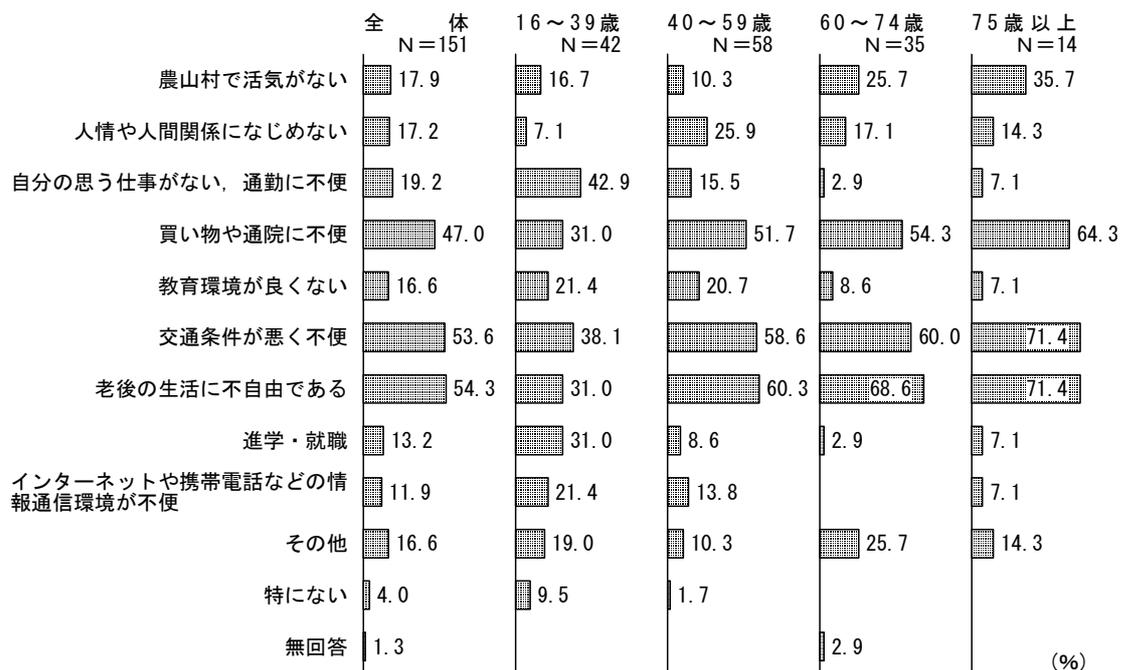
図16 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



カ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「老後の生活に不自由である」が54.3%で最も割合が高く、次いで「交通条件が悪く不便」53.6%、「買い物や通院に不便」47.0%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図17 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）

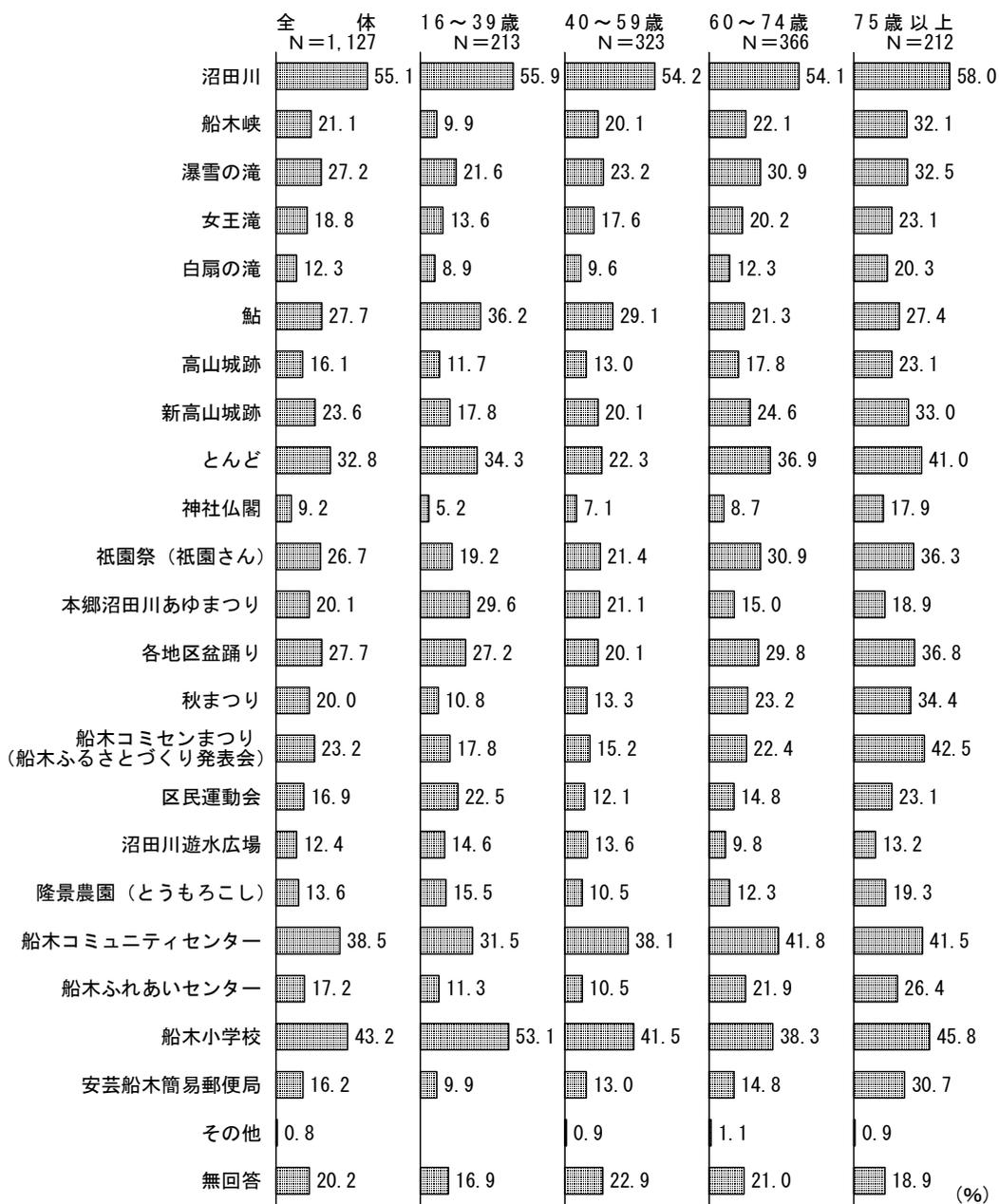


(4) 今後の地区づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源としては、「沼田川」が55.1%で最も割合が高く、次いで「船木小学校」43.2%、「船木コミュニティセンター」38.5%、「とんど」32.8%、「鮎」及び「各地区盆踊り」27.7%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「瀑雪の滝」27.2%、「祇園祭（祇園さん）」26.7%、「新高山城跡」23.6%、「船木コミセンまつり（船木ふるさとづくり発表会）」23.2%、「船木峡」21.1%、「本郷沼田川あゆまつり」20.1%、「秋まつり」20.0%などの順です。

図18 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）

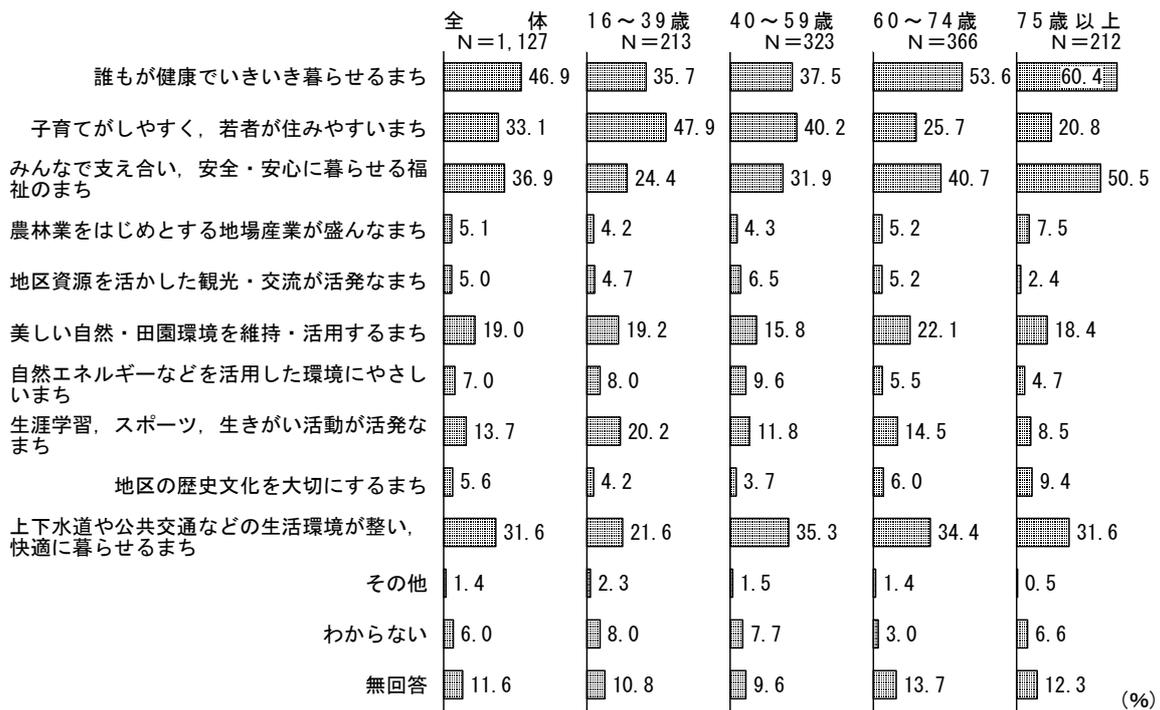


イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が46.9%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」36.9%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」33.1%、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」31.6%などの順で、これら4項目の割合が高くなっています。

また、16～39歳及び40～59歳では、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」の割合が最も高くなっています。

図19 地区の将来像（複数回答：3つ以内）

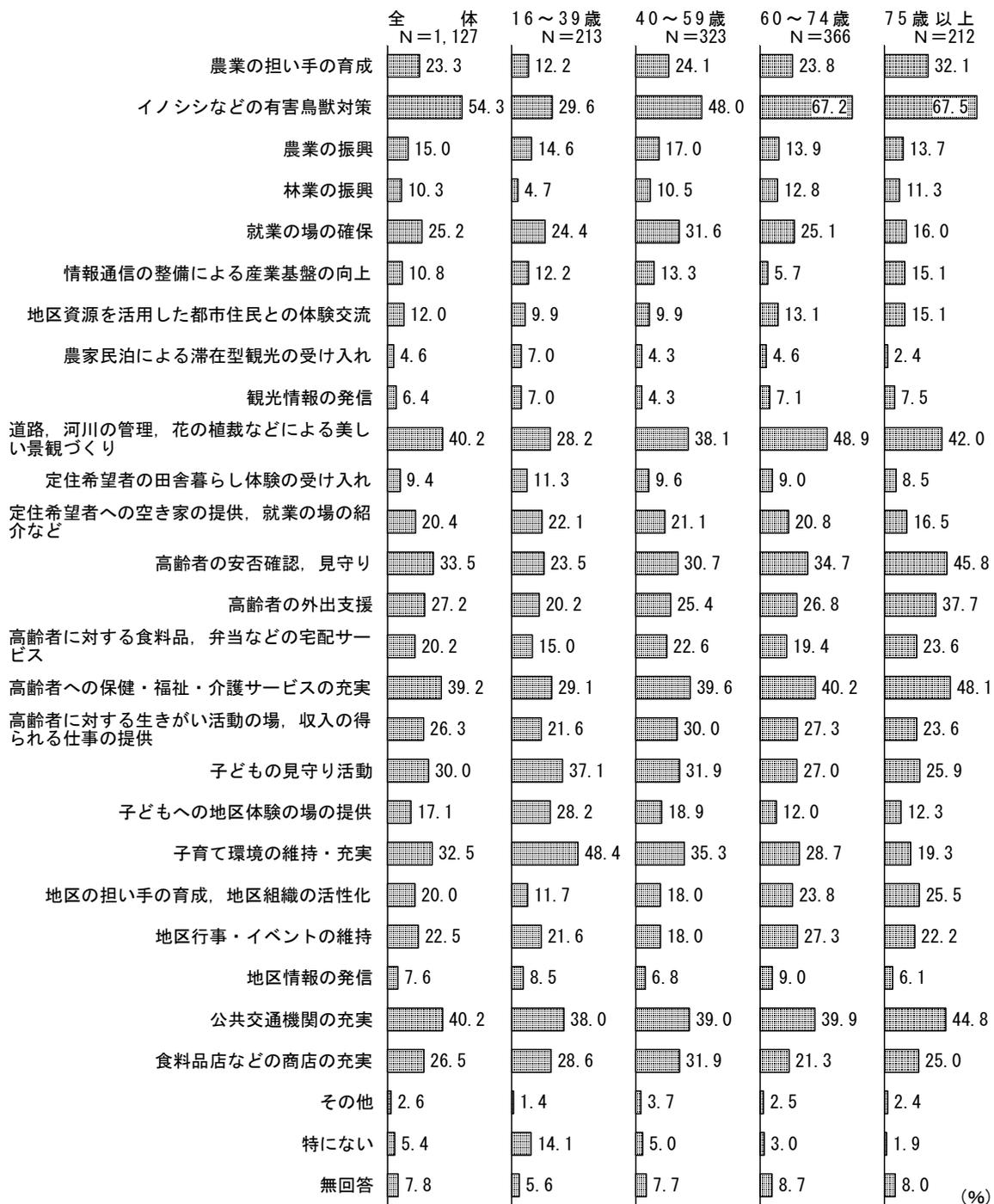


ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことは、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が54.3%で最も割合が高く、次いで「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」及び「公共交通機関の充実」40.2%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」39.2%、「高齢者の安否確認、見守り」33.5%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「子育て環境の維持・充実」32.5%、「子どもの見守り活動」30.0%などの順です。

また、16～39歳では「子育て環境の維持・充実」が48.4%で最も割合が高くなっています。

図20 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）

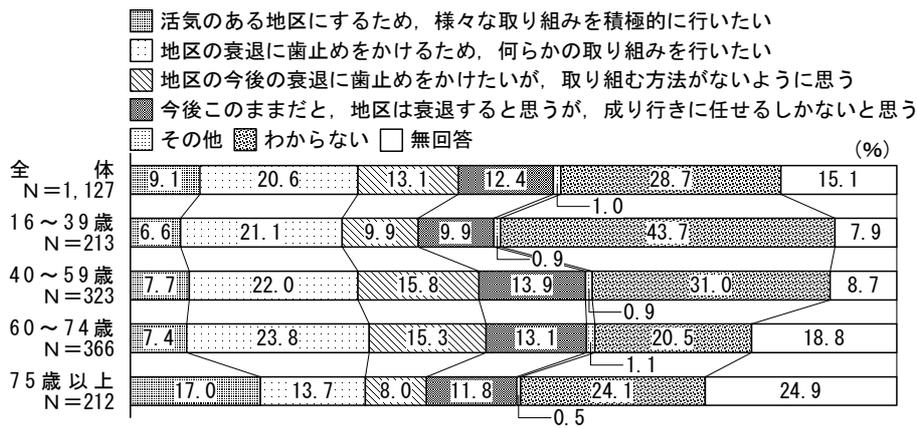


(5) 船木連合町内会の活動について

ア 船木地区の活性化に向けての取り組み意向

地区の活性化に向けての取り組み意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」9.1%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」20.6%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は約3割です。

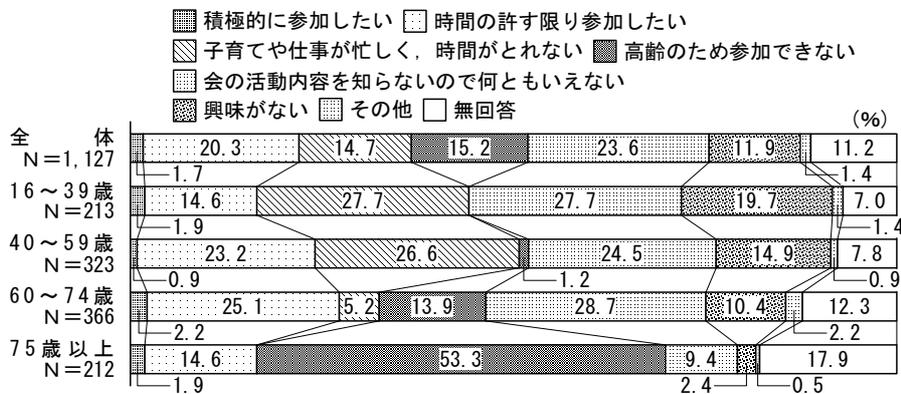
図21 船木地区の活性化に向けての取り組み意向



イ 船木連合町内会の活動への参加意向

船木連合町内会の活動への参加については、「積極的に参加したい」1.7%、「時間の許す限り参加したい」20.3%で、これらを合わせた町内会活動へ参加意向のある人は2割となっています。

図22 船木連合町内会の活動への参加意向

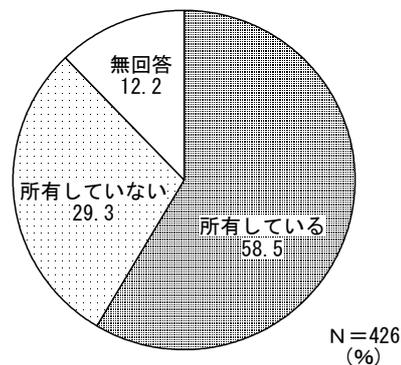


(6) 農地の所有・耕作状況について

ア 農地の所有状況

世帯主であると答えた方で、農地を「所有している」と答えた人は58.5%です。

図23 農地の所有状況



イ 農地を所有している人の状況

(ア) 農地の所有面積

農地を所有している人の農地の所有面積は、「50～100アール(5反～1町)未満」が36.5%で最も割合が高く、次いで「30アール(3反)未満」28.1%、「30～50アール(3～5反)未満」22.1%、「100～200アール(1～2町)未満」6.4%、「200～500アール(2～5町)未満」2.4%などの順です。

(イ) 耕作していない農地の割合

「荒らしている農地はない」と答えた人は41.8%です。

一方で、耕作していない農地がある人の割合は51.8%で、その内訳は農地の1～3割程度33.0%、農地の4～5割程度8.0%、農地の6～9割程度7.6%、「農地の全部」3.2%になっており、農地の1～3割程度の割合が高くなっています。

図24 農地の所有面積

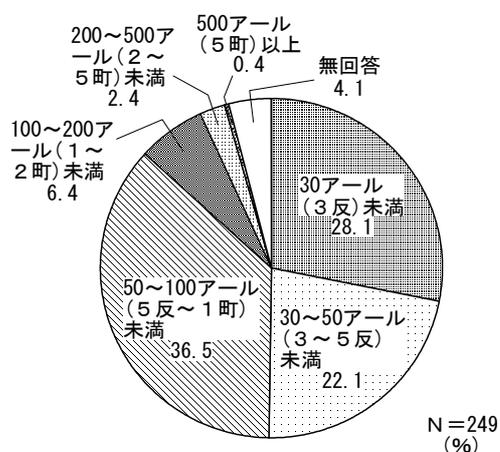
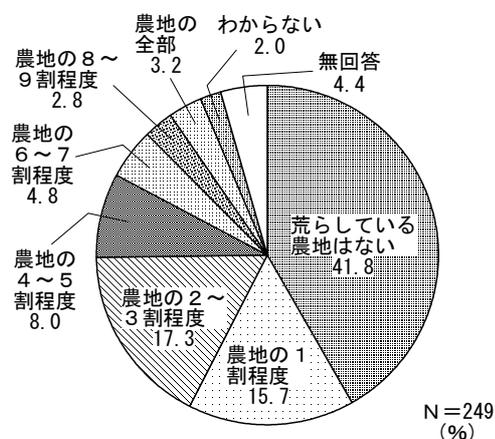


図25 耕作していない農地の割合



(ウ) 農地の現在の耕作状況

農地の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」が52.2%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作せず、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」20.5%、「家族で耕作するとともに、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」13.7%、「耕作を頼む農家や農業生産法人がないので、耕作していない」6.0%の順で、家族で耕作している人が5割以上になっています。

(エ) 農産物の販売状況

農産物の販売状況は、「農産物を販売していない」が62.7%で、6割以上を占めています。農産物を販売している人は24.1%で、その内訳は「JAへ出荷している」18.9%、「JAへ出荷するとともに、JAやっさふれあい市場などで販売している」3.2%、「JAやっさふれあい市場などで販売している」2.0%の順で、JAのみへの出荷がほとんどを占めています。

(オ) 農地の今後の耕作意向

農地の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が49.0%で最も割合が高く、次いで「わからない」21.7%、「家族での耕作をやめ、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む」13.3%、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む面積を増やす」6.4%、「耕作をやめる」5.2%の順になっています。

図26 農地の耕作状況

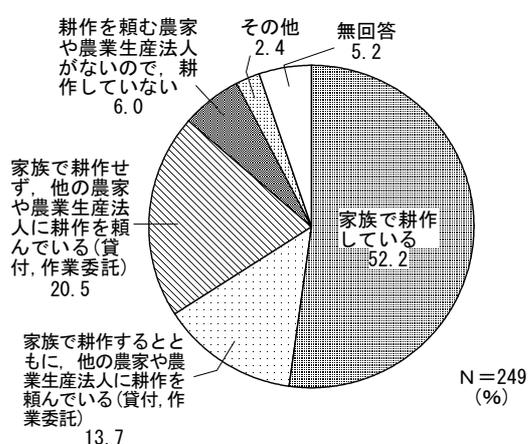


図27 農産物の販売状況

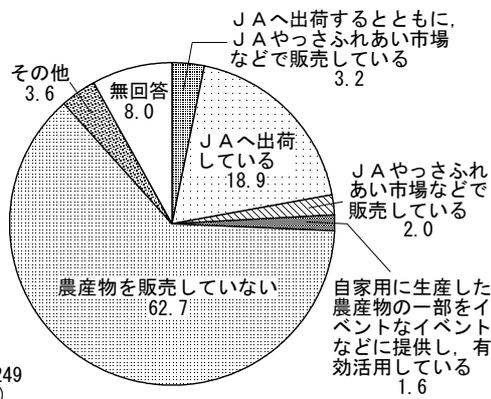
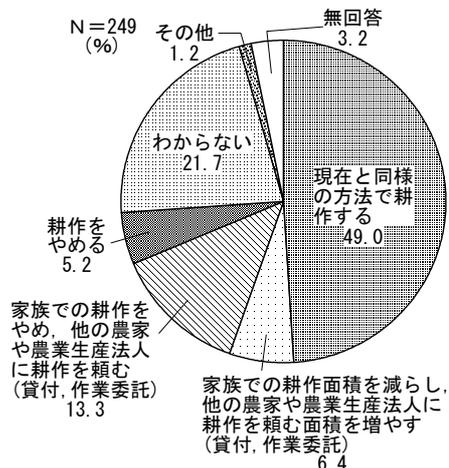


図28 今後の耕作意向

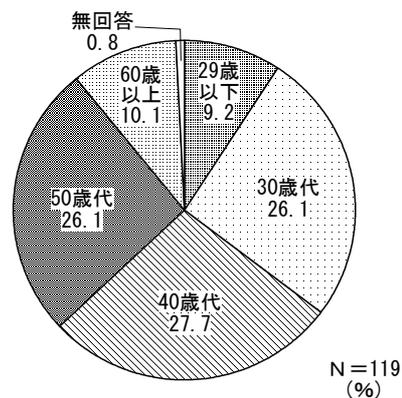


2 地区外に住み、船木地区に勤務している人

(1) 回答者自身について

回答者の年齢は、「40歳代」が27.7%で最も割合が高く、次いで「30歳代」及び「50歳代」26.1%、「60歳以上」10.1%、「29歳以下」9.2%の順で、30～50歳代の人約8割を占めています。

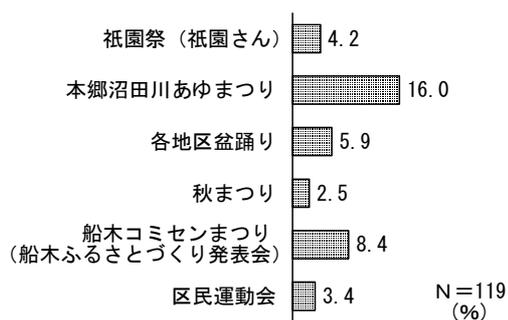
図29 年齢



(2) 行事・活動への参加状況と満足度

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人の割合をみると、「本郷沼田川あゆまつり」が16.0%で最も割合が高く、次いで「船木コミセンまつり（船木ふるさとづくり発表会）」8.4%、「各地区盆踊り」5.9%、「祇園祭（祇園さん）」4.2%、「区民運動会」3.4%、「秋まつり」2.5%の順で、各行事・活動ともに参加率が低くなっています。

図30 参加状況



(3) 船木地区への定住意向とその理由

船木地区に「近いうちに住みたい」及び「将来、住むことを考えたい」はそれぞれ0.8%で、船木地区に住む意向のある人はわずかです。

住む意向のある人の住みたいと思う理由としては、「仕事先に近い」が挙げられています。

住むつもりはない人の理由としては、「既に住み慣れた場所がある」が82.4%で大部分を占めています。その他では、「日常生活が不便である」23.5%、「老後の生活に不自由である」18.6%などの順です。

図31 定住意向

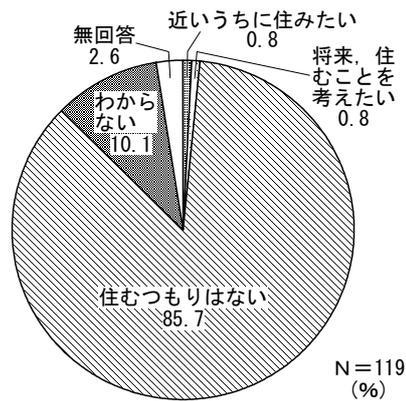


図32 住みたいと思う理由
(複数回答：いくつでも)

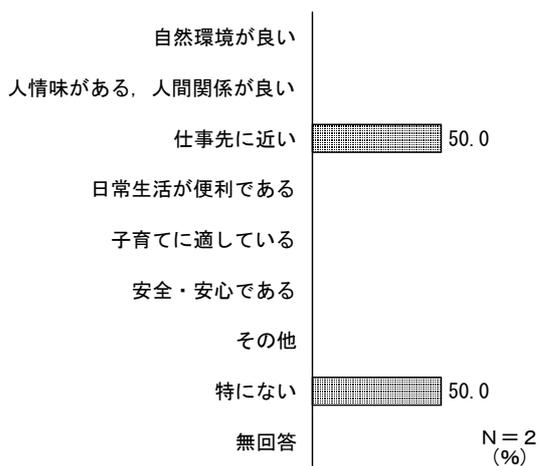
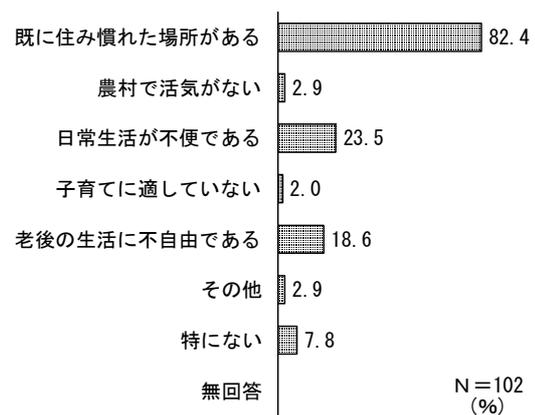


図33 住むつもりはないと思う理由
(複数回答：いくつでも)



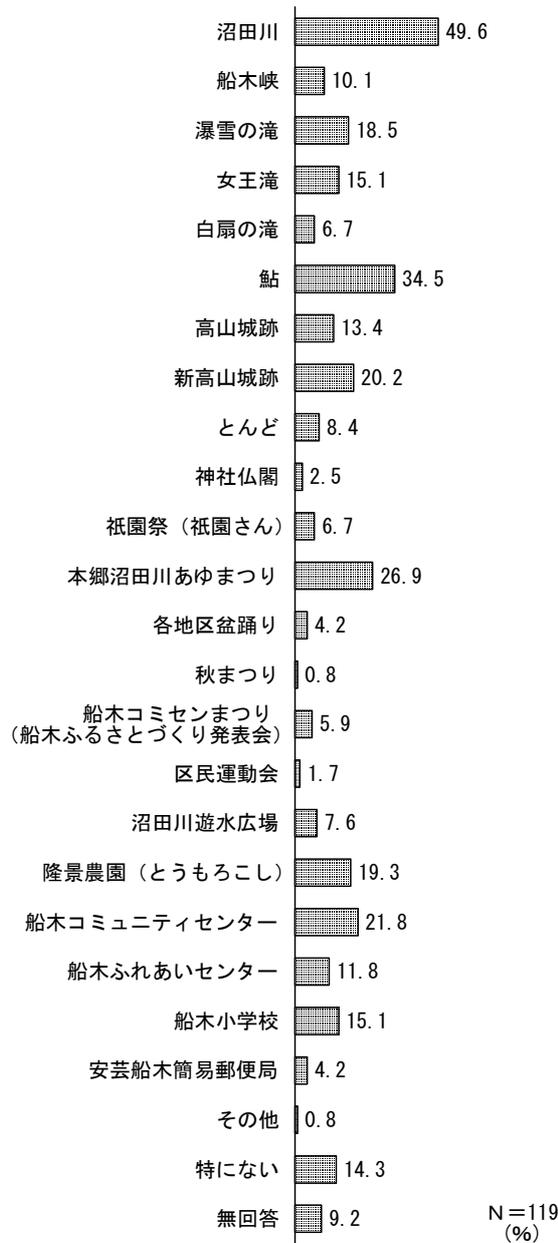
(4) 今後の地区づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源を答えた人（100%から「特にない」と「無回答」の割合を引いた値）は76.5%です。

地区で大事にしたい、活用したい資源は、「沼田川」が49.6%で最も割合が高く、次いで「鮎」34.5%、「本郷沼田川あゆまつり」26.9%、「船木コミュニティセンター」21.8%、「新高山城跡」20.2%などの順です。

図34 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）

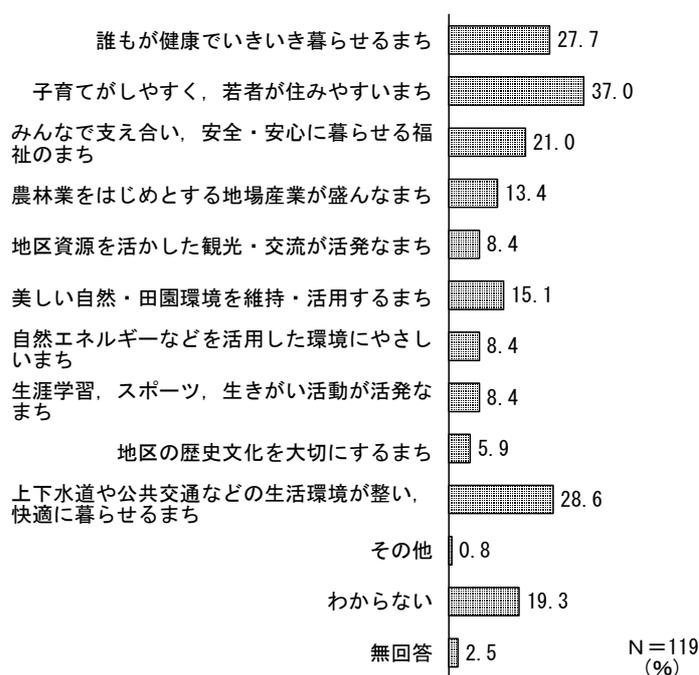


イ 地区の将来像

地区の将来像について答えた人（100%から「わからない」と「無回答」の割合を引いた値）は78.2%です。

地区の将来像は、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」が37.0%で最も割合が高く、次いで「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」28.6%、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」27.7%、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」21.0%などの順で、生活環境が整い、若者が暮らしやすいまちづくりが求められています。

図35 地区の将来像（複数回答：3つ以内）

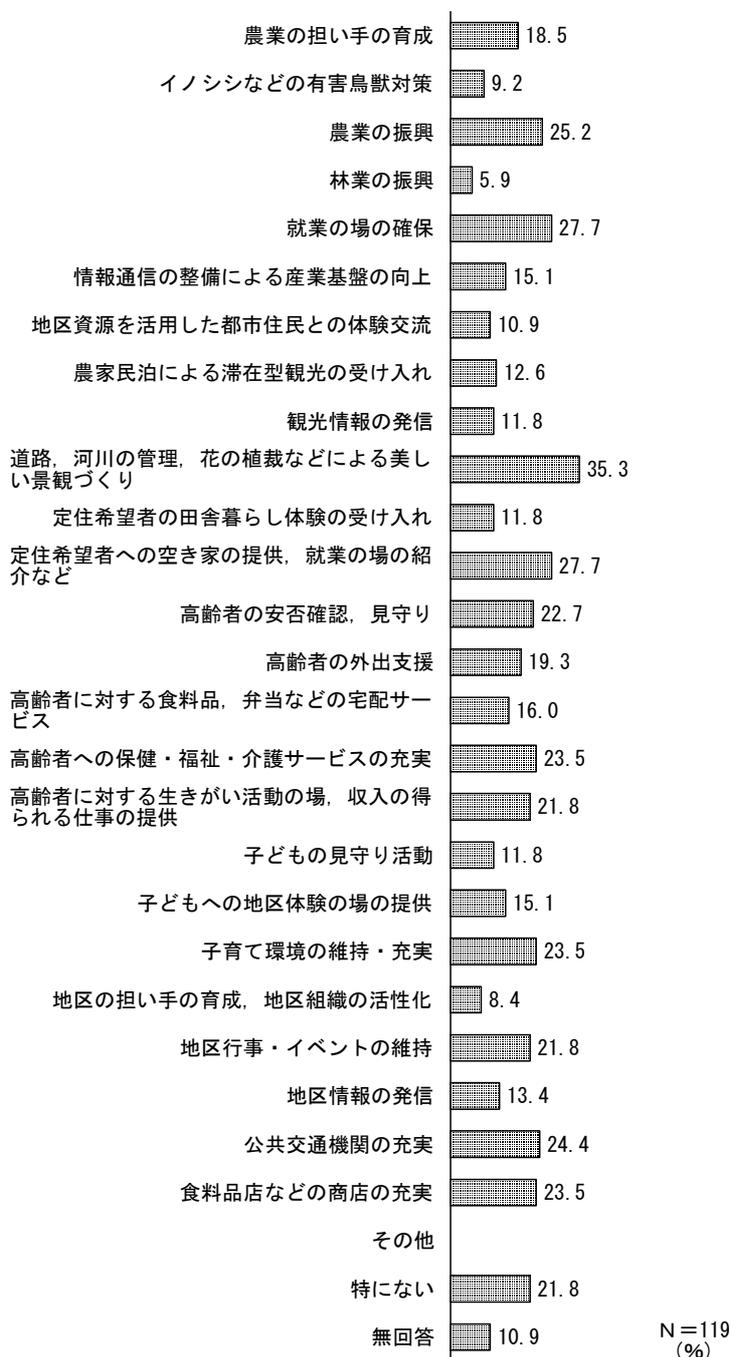


(5) 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことを答えた人（100%から「特にない」と「無回答」の割合を引いた値）は67.3%です。

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことは、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」が35.3%で最も割合が高く、唯一30%台になっています。次いで「就業の場の確保」及び「定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など」27.7%、「農業の振興」25.2%、「公共交通機関の充実」24.4%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」、「子育て環境の維持・充実」及び「食料品店などの商店の充実」23.5%、「高齢者の安否確認、見守り」22.7%、「高齢者に対する生きがい活動の場、収入の得られる仕事の提供」及び「地区行事・イベントの維持」21.8%などの順になっており、生活環境の整備、高齢者の支援、産業の振興及び就業の場の確保に関することが挙げられています。

図36 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）



3 地区内事業所の事業主

(1) 町内会への加入状況と町内会活動への協力について

町内会に「加入している」と答えた事業主は15.4%です。

(2) 町内会活動への協力状況

町内会活動へ「協力している」と答えた事業主は61.5%になっており、町内会へ加入していない事業主も、町内会の活動に協力しています。

図37 町内会加入の有無

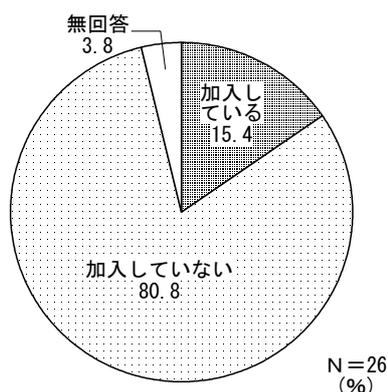
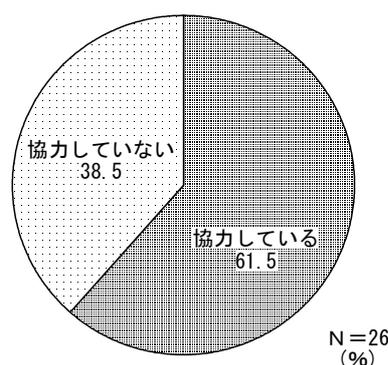


図38 活動への協力状況



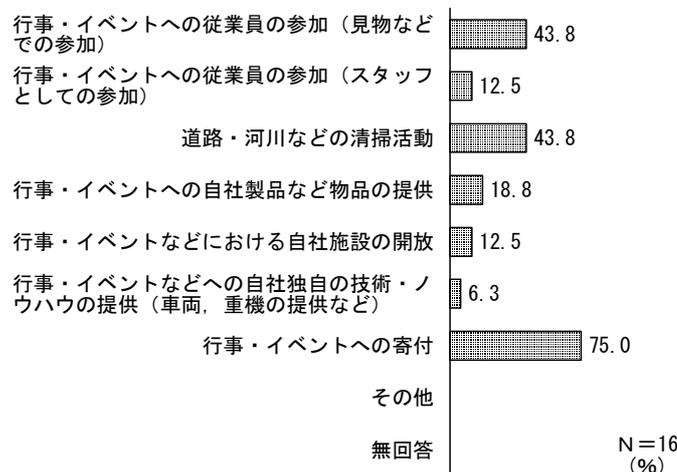
(3) 町内会活動に協力している事業主の現在の協力内容と今後の協力意向

ア 町内会活動に協力している内容

町内会活動に協力している事業主の協力している内容をみると、「行事・イベントへの寄付」が75.0%で最も割合が高く、次いで「行事・イベントへの従業員の参加（見物などでの参加）」及び「道路・河川などの清掃活動」43.8%の順で、これら3項目の割合が高くなっています。

一方、行事・イベントへの従業員の参加（スタッフとしての参加）、自社製品など物品の提供、自社施設の開放、技術・ノウハウの提供（車両、重機の提供など）の割合は低くなっています。

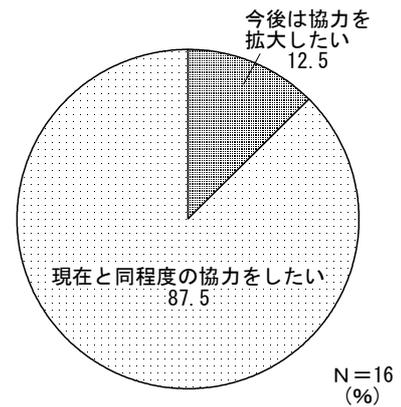
図39 活動へ協力している内容（複数回答：いくつでも）



イ 町内会活動への今後の協力意向

町内会活動への今後の協力意向は、「現在と同程度の協力をしたい」が87.5%でほとんどを占めているほか、「今後は協力を拡大したい」が12.5%で、一部の事業主は町内会活動へ積極的に協力する意向を持っています。

図40 今後の協力意向

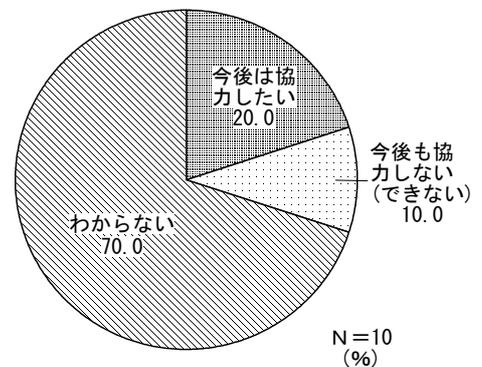


(4) 町内会活動に協力していない事業主の今後の協力意向とその内容

ア 今後の協力意向

町内会活動へ協力していない事業主で「今後は協力したい」答えた事業主は20.0%です。

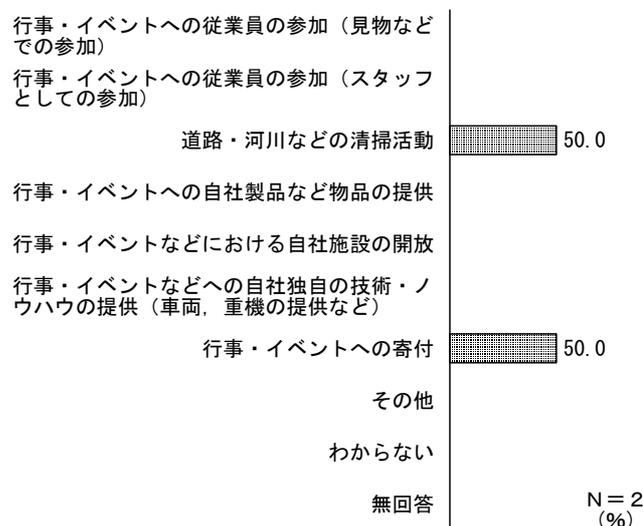
図41 今後の協力意向



イ 今後活動へ協力したい内容

今後活動へ協力したい内容としては、「道路・河川などの清掃活動」と「行事・イベントへの寄付」が挙げられています。

図42 今後活動へ協力したい内容（複数回答：いくつでも）



4 調査結果のまとめ

アンケート調査結果からみた主な留意事項は次のとおりです。

(1) 地区づくり活動への参加の働きかけ

- ・地区の活性化に向けての取り組み意向において、今回のアンケート調査に回答した16～39歳のうち約60人が何らかの取り組みを行いたいと考えており、こうした年代に対して、地区づくり活動への参加を働きかけるとともに、活動の場の提供を図る必要があります。

(2) 町内会活動のあり方の検討

- ・船木連合町内会の活動への参加意向において、16～39歳は他の年代に比べて、参加意向が低くなっており、連合町内会の活動の周知を強化する必要があります。

(3) 沼田川の活用

- ・船木地区の魅力・資源として各年代ともに「沼田川」が第1位に挙げられており、清掃・整備、美しい景観形成、地区内及び都市住民との交流の場など、沼田川の活用を検討・充実する必要があります。

(4) 地区防災対策の強化

- ・アンケート調査の自由意見において、沼田川は水害の恐れのある河川として意識されており、防災対策の充実が求められています。

(5) 地区内事業所（事業主及び従業員）との連携の強化

- ・地区内事業所の事業主は町内会活動への協力意向を持っていることから、地区の行事・祭りの周知を強化するとともに、スタッフとしての参加など様々な協力を働きかけることが考えられます。

3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表4 地区の魅力・資源

区 分	地区の魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none">・自然に囲まれて地区全体の景観が良い・沼田川の景観・沼田川，菅川・遊水広場（アユ）・船木峡（他に類がない）・滝（瀑雪の滝，女王滝，白扇の滝）・新高山城の桜・農業用水路
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none">・神社仏閣（永福寺，^{へきれき}霹靂神社（1,000年以上の歴史のある神社）等）・豊富な史跡（岡井城跡，永福寺城跡，高山城跡，新高山城跡等）
農業・農地	<ul style="list-style-type: none">・船木の田園景観・農事組合法人
道路・交通資源	<ul style="list-style-type: none">・広島中央フライトロード，広島空港大橋・広島空港・山陽自動車道本郷インターチェンジ
その他	<ul style="list-style-type: none">・船木小学校・船木コミュニティセンター

2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表5 地区の問題点・課題

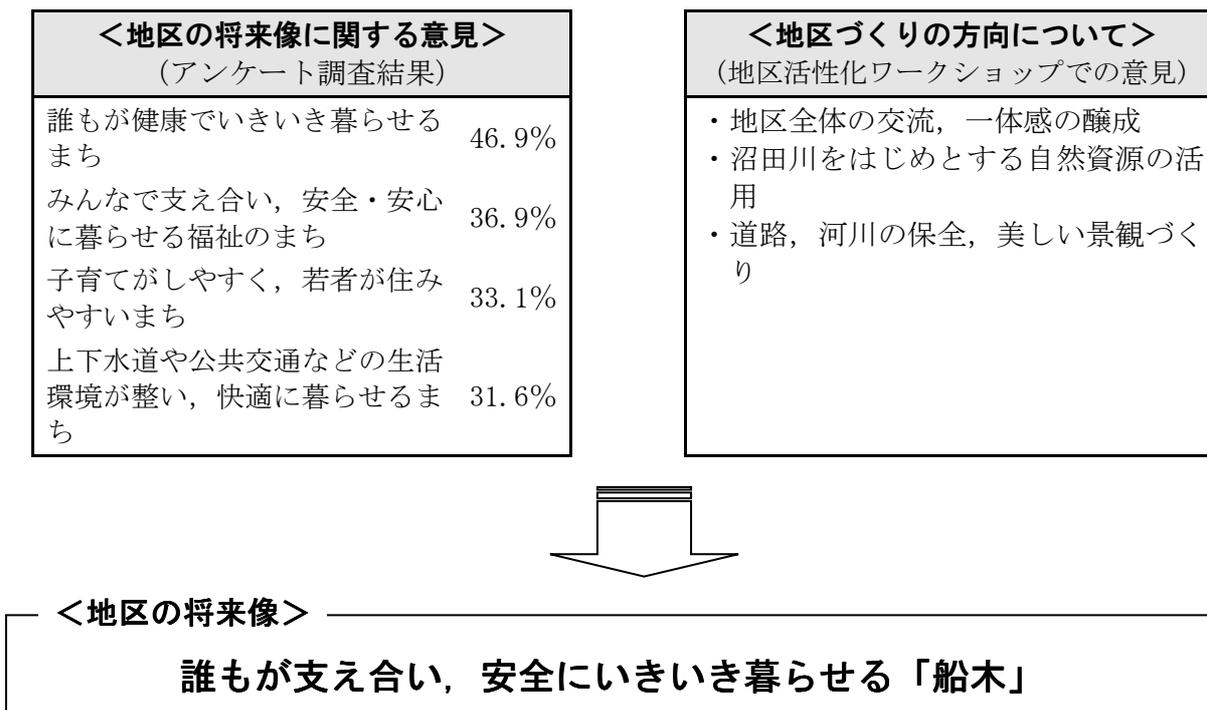
区 分	地区の問題点・課題
地区全体	・人口減少，少子化，高齢化
高齢者の暮らし	・独居高齢者の増加と日常生活の不安 ・自家用車を運転できない高齢者の外出手段の確保 ・高齢者の外出の困難化（買い物，通院等の問題）
若者の定住，子ども・子育て	<若者> ・若者が住みにくい，学校を卒業後地区外で就職，居住 ・働く場所が近くにない
	<子ども> ・船木小学校の統廃合への不安と閉校後の活用 ・遊ぶ場所がない ・放課後子どもが過ごせる場所がない ・習い事をするのに三原地域まで行かなければならない
農業・農地，林業・林地	<農業・農地> ・イノシシ等の有害鳥獣被害の増加への対応 ・農業の担い手の減少による休耕田の増加 ・農産物価格の低迷，農業所得の確保が難しい
	<林業・林地> ・山林の荒廃，担い手がいない
生活環境	・路線バスの利用が不便 ・地区内に商業施設がなく買い物に不便 ・沼田川の環境悪化，景観的な魅力も低下 ・土砂が堆積して中洲を形成，河川に竹が繁茂 ・通行車両からのゴミのポイ捨て ・川鵜やブラックバスの影響で魚等の水生生物が減少 ・平坂地区に避難場所がない ・空き家の増加
地区活動・近隣関係	・伝統の継承，年配者（ベテラン）から若者への継承ができていない ・高齢化による伝統行事の維持の困難化 ・行事への参加者が少ない ・町内会単位行事が多く，船木地区全体で行う行事は少ない ・地区全体での交流が少なく，顔見知りが少ない
その他	<芋堀地区> ・交通，買い物が不便，買い物は三原へマイカーで行く ・中心部までタクシーで行くと運賃が片道約5,000円と負担が大きい
	<ラジオ難聴地区> ・ラジオが入らず，災害時の情報の収集ができない

4章 地区の活性化計画

1 地区の将来像

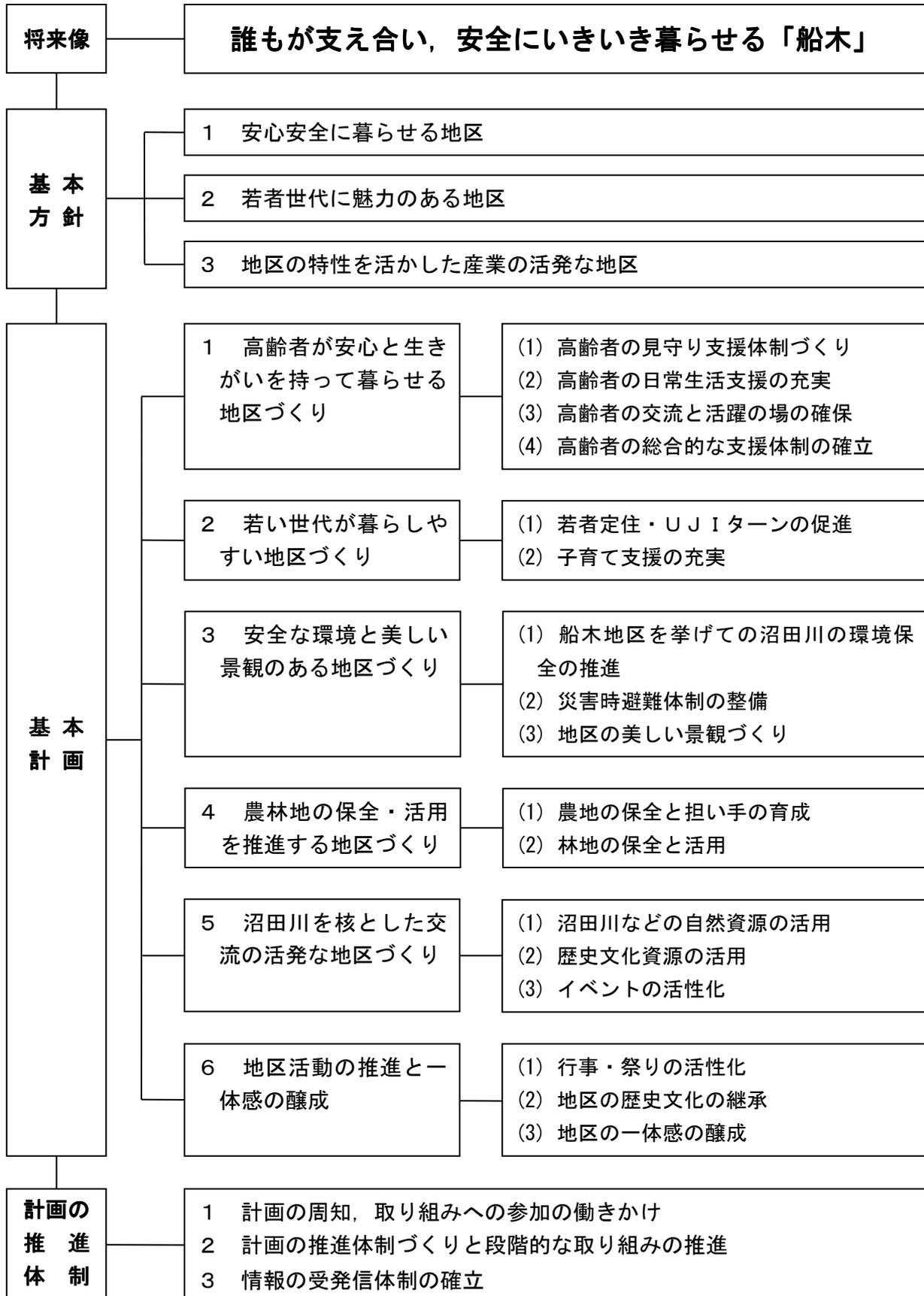
地区の将来像は、アンケート結果での地区の将来像に関する意見と地区活性化ワークショップでの地区づくりの方向に関する意見を踏まえて、「誰もが支え合い、安全にいきいき暮らせる「船木」」を掲げます。

図44 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図45 地区づくりの体系



2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

1 安心安全に暮らせる地区

- ・ 沼田川の水害防止をはじめとする災害防止及び災害時の支援が充実した安全安心して暮らせる地区
- ・ 地区全体で高齢者を支え、安全安心と生きがいを持って暮らせる地区
- ・ 各町内会に加え、船木地区全体での交流が活発化し、地区として一体感のある地区

2 若者世代に魅力のある地区

- ・ 住宅、就業場所などの情報提供の充実などによる定住・U J I ターンがしやすい地区
- ・ 子育て環境を充実するとともに子ども及び保護者の交流が活発で、地区全体で子育て（ふなきっ子の育成）を支援する地区
- ・ 地区内の若者の交流が活発で、地区づくりの担い手として積極的に活動する地区

3 地区の特性を活かした産業の活発な地区

- ・ 農林地の保全と活用、沼田川の環境保全対策などにより、美しい田園景観が形成されている地区
- ・ 美しい田園景観、沼田川、その他の資源を活かして、来訪客との交流を推進する地区
- ・ 恵まれた高速交通条件を背景として、産業活動が活発な地区（既存事業所の活性化等）

3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画として6つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容は、アンケート調査結果、ワークショップ（意見交換会）での意見をもとにとりまとめたものです。

1 高齢者が安心と生きがいを持って暮らせる地区づくり

(1) 高齢者の見守り支援体制づくり

- ・隣近所で一人暮らしの高齢者の見守りに取り組みます。（夜の灯りの点灯状況、郵便ポストの状況等）
- ・地区を挙げて高齢者の見守り支援体制づくりに取り組みます。
- ・地区、郵便局（郵便ポストの状況確認）などが連携した一人暮らし高齢者の安否確認について検討します。

(2) 高齢者の日常生活支援の充実

ア 移動支援

- ・地区で高齢者の外出を支援するボランティア運行体制づくりを検討します。（車両購入、運転手の確保、運行経費の負担等への対応）
- ・芋堀地区は、本郷地域中心部まで距離があるため、地区の協力のもとに高齢者の外出を支援する方法を検討します。
- ・バス停まで徒歩で行くことができない高齢者にとって、路線バスの利用は難しいことから、行政の支援制度を踏まえつつ、地区において今後の外出支援方法を検討します。

イ 買い物支援

- ・地区内を移動販売業者に巡回してもらえる仕組みづくりを検討します。
- ・高齢者の注文を聞き、商店・スーパーで購入し、配達する仕組みづくりを検討します。
- ・生協・JA・スーパーと連携し、自宅で注文（食料品）し、宅配してもらえる仕組みづくりを検討します。（一定の場所に配達してもらった後、高齢者の家に地区のボランティアが配達する仕組みを検討します。）

ウ 草刈り・ゴミ出し等の支援

- ・高齢者のみの世帯に対して、ゴミ出し（ゴミの分別、ゴミ置き場までの搬送）、庭の手入れなどを支援するため、地区で支援体制づくりに取り組みます。（社会福祉協議会、シルバー人材センターの取り組みとの役割分担と連携に配慮します。）

(3) 高齢者の交流と活躍の場の確保

ア 高齢者サロンの充実

- ・ 高齢者がサロンなどで作成した手芸品などを販売する仕組みづくりに取り組みます。
- ・ 地区への常設サロンの設置と、自宅からサロン、サロンからスーパーなどへの送迎を行うことを検討します。

イ 高齢者の活躍の場の確保

- ・ 都市住民向けに貸農園を設置し、元気な高齢者が農業の技術指導を行うことを検討します。
- ・ 高齢者が、子どもに昔の遊びを教え、一緒にふれあう場の確保に取り組みます。
- ・ 健康づくりのために、ラジオ体操（体を動かす）、ウォーキングなどを推進します。

(4) 高齢者の総合的な支援体制の確立

- ・ 高齢者を支援している社会福祉協議会、老人会・老人クラブ、女性会、民生委員・児童委員などと連携して、船木地区の高齢者を総合的に支援する体制づくりを検討します。
- ・ 支援の必要な一人暮らし高齢者などの見守り及び生活支援、高齢者の交流及び活躍の場の確保などについて総合的に検討します。

2 若い世代が暮らしやすい地区づくり

(1) 若者定住・U J I ターンの促進

ア 空き家の提供によるU J I ターンの促進

- ・地区全体で総合的な空き家対策に取り組み、空き家を活用して若者の定住に結びつけることを検討します。(老朽建物の撤去等による安全な環境の確保、利用可能な空き家の発掘、空き家の提供等)
- ・住宅だけでなく休耕田を貸与し、U J I ターンで農作業が楽しめる環境づくりに取り組みます。
- ・U J I ターンの多い先進事例の研究、視察に取り組み、地区の取り組みの参考にします。

イ 地区内事業所と連携した求人情報の提供

- ・事業所が多い特性を活かし、地区内での就職を希望する人に事業所と連携して求人情報を提供することを検討します。

(2) 子育て支援の充実

ア 子どもと保護者の交流の場づくり

- ・子ども会の活動を地区全体で支援し、子育てしやすい環境づくり（子と親の会をつくる）に取り組みます。
- ・地区の関係団体が連携して放課後児童クラブの充実を図るとともに、地区の子どもが活発に交流できる場を確保します。
- ・船木小学校で夏に竹を使ってそうめん流しをするなど、子どもが喜ぶイベントに取り組みます。

イ 子どもの遊び場づくり

- ・子どもが楽しく遊べる広い公園、広場の確保、整備に取り組みます。
- ・沼田川河岸を整備して子どもの遊ぶ場所の確保に取り組みます。(アスレチックのような体を動かせる遊具の設置等)

3 安全な環境と美しい景観のある地区づくり

(1) 船木地区を挙げての沼田川の環境保全の推進

ア 沼田川の環境改善

- ・船木連合町内会が、沼田川（船木地区内）のアダプト制度（ラブリバー）認定団体となり、広島県・三原市と連携して沼田川の環境管理に取り組む体制の確立に取り組みます。
- ・河川内の竹林伐採、草刈りによる河川環境の保全、水害の防止に取り組むとともに、伐採した竹の活用（竹炭、竹細工製品等）を検討します。
- ・河川環境の保全と併せて、水生生物が豊富に生息する川づくりを行うため、川鶉の退治、ブラックバスの駆除に取り組みます。
- ・桜の名所となっている沼田川の桜並木の保全に取り組みます。

<広島県アダプト制度>

道路・河川の美化・清掃などに取り組む住民団体・学校・事業所などを「アダプト認定団体（河川はラブリバー団体）」に広島県が認定し、広島県及び三原市が活動を支援する制度

イ 沼田川のダム管理情報の迅速な提供

- ・地区住民の安全を確保するため、大雨の時などにおける福富ダム及び椋梨ダムの放水情報の地区への迅速な提供を働きかけます。

(2) 災害時避難体制の整備

- ・平坂地区などに安全な災害避難場所を確保するとともに、住民への周知や避難訓練に取り組みます。
- ・ラジオ難聴地区をはじめとして、各戸へ災害・避難情報の適確な伝達方法を検討します。

(3) 地区の美しい景観づくり

- ・沼田川及び菅川、県道及び市道の地区を挙げての定期的な清掃活動を実施し、美しい景観づくりに取り組みます。

表6 具体的に取り組む事業

事業名	・沼田川環境保全・魅力づくり事業
事業の目的	・沼田川の水害防止 ・沼田川の美しい景観づくりと交流の推進
事業の対象	・沼田川，菅川等の河川内，堤防
事業の内容	<p><地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連合町内会がアダプト（ラブリバー）団体の認定を受け，自治会，関係団体，事業所と連携して環境保全体制づくりを行う。 ・ 河川内の雑木，竹林の伐採に取り組む。 ・ 沼田川，菅川等で，ホタルをはじめとする水生生物が生息する環境づくりに取り組む。 ・ 雑木，竹を活用した製品づくりを行うための組織設立，加工施設の整備等に取り組む。 ・ 農業者と連携して竹パウダーを肥料として活用を図る。 <p><河川管理者等に望むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連合町内会の活動支援 ・ 沼田川の水害を防止するための取り組み（河川堆積土砂の除去，伐採後の雑木，竹等の処分）
事業の年次計画	H27年度：組織作りと全体計画づくり，アダプト団体の認定申請 H28～30年度：雑立竹木の伐採，その他具体化及び要望調査等
連携する組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民，各種団体，地元事業所 ・ 行政 ・ NPO法人，北方地区

4 農林地の保全・活用を推進する地区づくり

(1) 農地の保全と担い手の育成

ア 有害鳥獣被害防止対策の推進

- ・猪対策として全地区防護策の設置に取り組みます。
- ・行政の支援制度を活用して、各種対策に取り組みます。(防護柵, 箱檻, 狩猟免許等)
- ・イノシシ肉の加工品製造(ハム, 焼豚)を検討します。

イ 農業の担い手の育成

- ・既存の農業生産法人の活動を支援するとともに、未設立の地区での新たな農業生産法人の設立を働きかけます。
- ・地区で休耕田を活用して農業する人を募集し、就農希望者と地区の農家で法人を設立して農業を行うことを検討します。(開拓団的な組織)

(2) 林地の保全と活用

- ・山林の雑木の伐採, チップづくりを行い、肥料として活用することに取り組みます。
- ・林地の保全・活用の取り組みを、都市住民などへ林業体験(見学, 学習, 体験等)の場として提供することを検討します。

5 沼田川を核とした交流の活発な地区づくり

(1) 沼田川等の自然資源の活用

ア 船木峡の整備

- ・美しい河川空間の広がる船木峡について、休息施設、遊歩道、バーベキュー広場などを整備することに取り組みます。あわせて、淡水生物のミニ水族館の設置を検討します。

イ 遊水広場の整備

- ・遊水広場を花の名所にするとともに、新たなイベントの創出に取り組みます。
- ・沼田川河川敷を活用してグラウンド・ゴルフ場の整備を検討します。

ウ ホタルの里づくり

- ・船木地区全域でのホタルの里づくり（幼虫、カワニナの養殖、ホタルが生息できる環境づくり等）に取り組みます。
- ・農業用水路を活用したホタルの養殖に取り組みます。

エ 女王滝の整備

- ・女王滝への来訪客を増やすために、遊歩道や進入路の整備などに取り組みます。

(2) 歴史文化資源の活用

- ・地区の歴史文化の掘り起こしを行い、住民及び来訪客が地区を楽しめるように、名所、史跡を巡るコースづくりに取り組みます。

(3) イベントの活性化

- ・地区外からの来訪客が多い本郷沼田川あゆまつりについて、地区を挙げて活性化に取り組みます。（PR、イベント内容の充実、地区住民の参加の促進等）
- ・霹靂神社のイベント（初詣、豆まき、御神輿、秋祭り）を創出し、地区の賑わいづくりに結びつけることを検討します。

6 地区活動の推進と一体感の醸成

(1) 行事・祭りの活性化

ア 参加者を増やす取り組み

- ・ 外出手段のない高齢者の行事・祭りへの送迎を検討します。
- ・ 地区との関わりが希薄な住民に声かけして、行事・祭りへの参加を促進します。
- ・ 若者の参加を増やすため、小・中学生、高校生及び大学生の参加を働きかけます。

イ 行事単位の見直し

- ・ とんど、盆踊りなどの行事・祭りを少人数で支えている町内会の増加、過疎化、高齢化による参加者の減少を踏まえ、行事・祭りを集約化して船木地区全体で開催することを検討します。

ウ 行事・祭りの活性化

- ・ 船木地区区民運動会を継続するとともに、船木ふるさとづくり発表会を盛り上げるほか、大人と子どものスポーツ交流大会の開催に取り組みます。
- ・ 行事・祭りの魅力化を図るために、地区の農家と連携して地元農産物の販売に取り組みます。

(2) 地区の歴史文化の継承

- ・ 地区で継承されてきた歴史文化、伝統芸能、郷土料理を掘り起こし、次世代に伝える場を確保し、地区挙げて学習を推進するとともに、子どもの郷土愛の醸成に取り組みます。
- ・ 地区の歴史文化をまとめた「船木地区誌（仮称）」の編纂、案内看板の設置に取り組みます。

(3) 地区の一体感の醸成

- ・ 船木地区全体で子どもと高齢者をはじめとする世代間の交流を推進し、地区の一体感の醸成を図ります。
- ・ 船木コミュニティセンターを積極的に活用するとともに、閉校後の船木小学校の今後の活用について検討し、誰もが集い、交流できる場づくりに取り組みます
- ・ 船木地区のPRと地区の一体感の醸成を図るため、イメージキャラクターづくり（企画、公募、選定、具体的な展開）に取り組みます。
- ・ ミス船木の募集など地区全体を盛り上げる取り組みを検討します。

4 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

地区住民へあらゆる機会を通じて「船木地区活性化計画」の周知，取り組みへの参加を働きかけます。

- ・船木地区活性化計画概要版を全戸配布します。
- ・町内会及び関係組織の会合で船木地区活性化計画を説明します。

(2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進体制づくり

- ・地区活性化計画を推進するために，町内会及び関係団体などで構成する計画推進組織を船木連合町内会の中に設置します。
- ・船木連合町内会の活動を若者の多い団体（消防団，スポーツ団体等）にPRし，地区活性化計画の推進部門への参加を働きかけます。
- ・船木連合町内会及び各種団体の事務局を一体的に確保し，連携した活動が行える体制を確立します。
- ・町内会活動の維持が難しくなっている組織があることから，町内会活動の体制づくり（町内会の統合，地区単位等）を検討します。
- ・事業所の多い船木地区の特徴を活かして，事業主及び従業員に対して行事・祭りなどの情報を発信し，担い手及び見物客としての参加を働きかけます。
- ・人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

イ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを行います。

ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・住民，各種団体，事業所，NPO法人などとの連携を強化します。
- ・地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援施策を活用します。
- ・講習会，研修会，先進地視察などの実施により，人材の育成を図ります。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内向け情報発信

- ・船木連合町内会だよりの発行を検討します。
- ・若者世帯などに対し，インターネットを活用した情報発信を行います。

イ 地区外向けの情報発信

- ・船木連合町内会のホームページを開設し，地区の魅力・活動の発信を通じて地区出身者，都市住民との交流を推進します。

ウ 人材の確保

- ・船木連合町内会のホームページを管理，活用できる人材を確保，育成し，タイムリーな情報の発信体制を確立します。

資料 計画策定の取り組み

計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項
平成25(2013)年 11月9日(土)	準備会議	・計画策定についての協議
平成26(2014)年 2月2日(日)	準備会議	・計画策定についての協議
6月27日(金)	第1回地域計画 策定委員会	・地域計画策定委員会の設置 ・「地域計画」策定の進め方について ・アンケート調査, ワークショップについて
7月26日(土)	第2回地域計画 策定委員会	・アンケート調査票の内容について ・アンケート調査票の配布回収について
8月18日(月)～ 8月31日(日)	アンケート調査	・アンケート調査の実施 ・地区内住民(16歳以上) ・地区外に住み, 船木地区に勤務している人 ・地区内事業所の事業主
10月25日(土)	第1回船木地区活性 化ワークショップ	・アンケート調査結果の報告
11月30日(日)	第2回船木地区活性 化ワークショップ	・地区の魅力・資源と活用に向けてのアイデア ・地区で困っていることとその解決のアイデアについて ・参加者が関心のあること, 今後具体的に取 り組みたいこと
平成27(2015)年 1月18日(日)	第3回船木地区活性 化ワークショップ	・テーマ別の具体的な取り組みについて
2月22日(日)	第3回地域計画 策定委員会	・計画素案の協議, 修正
3月21日(土)	第4回地域計画 策定委員会	・計画案の協議, 承認